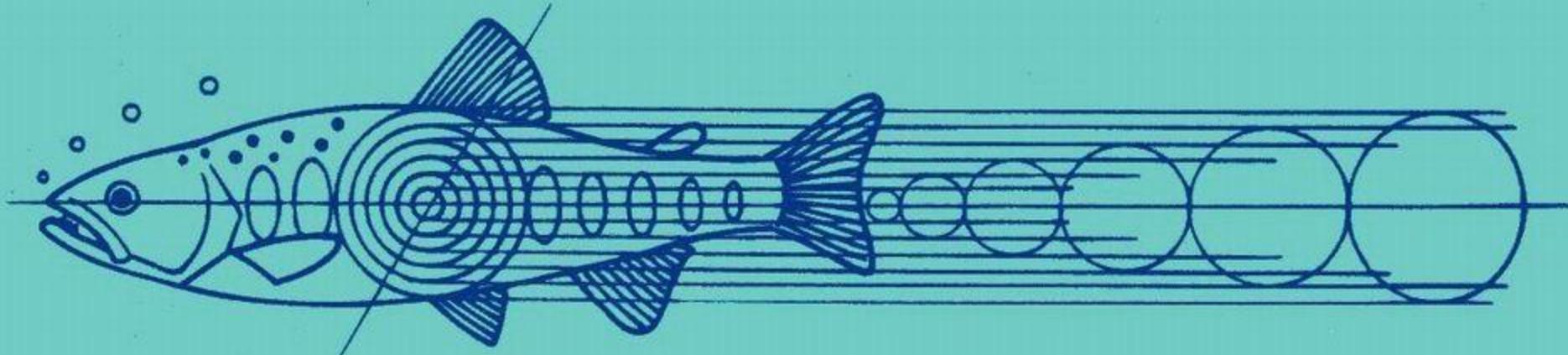




長良川に徳山ダムの水はいらない。



# 「木曽川水系連絡導水路計画」とは 長良川に徳山ダムの水を流す

木曽川水系連絡導水路は、徳山ダムに貯められた水を木曽川に流すものです。揖斐川上流から木曽川・坂祝町まで約43kmを直径約4mの地下トンネルで結び毎秒20m<sup>3</sup>の水を流します。16m<sup>3</sup>は渴水時の「環境改善」のため、残りの4m<sup>3</sup>は名古屋市・愛知県の水道など都市用水のためと言われています。総事業費は890億円、2015年完成をめざしています。その一部（常時毎秒0.7m<sup>3</sup>※、渴水時最大毎秒4.7m<sup>3</sup>）を長良川に放流する案が明らかになったのは2007年8月で突然のことでした。鵜飼が行われるすぐ上流あたりに放流される水は、羽島市あたりに造られる下流導水路により木曽川に流されます。



※毎秒0.7m<sup>3</sup>の流量は、人口約15万人の都市下水道の放流量にあたります。

千三百年の歴史をもつ鵜飼で  
知られる長良川…  
いま、徳山ダムの水が  
この長良川に  
流されようとしています。  
しかし、その水が  
長良川の生態系や  
環境を大きく変え  
取り返しのつかないことに  
ならないか心配です。  
そのうえに  
この事業に890億円もの  
税金が使われます。  
あなたはこのまま黙って  
見過ごせますか

## 「環境改善」とは

導水路建設事業の最大の目的は、渴水時の「環境改善」といわれています。

国は1994年大渴水の「環境被害」を挙げて環境改善の説明をしていますが、被害の具体的データは明らかにされていません。

木曽川のヤマトシジミや長良川の魚類の生息・産卵データをもとに、国は木曽川の成戸地点や長良川の忠節地点に必要流量を設定していますが、その根拠には専門家から疑問の声があがっています

長良川のことをよく知っている釣り人や研究者は、河川改善どころか長良川の本来の生態系がますます危うくなるのではないか、予想できない環境異変が起るのではないかと不安や懸念の声をあげています。

渴水時に流すというこの水は、徳山ダム建設が始まったとき、名古屋市水道が「いらない」と放棄した水です。「環境改善」とは使い道がなくなったこの水のために作りあげられた「目的」なのです。



## 巨額の負担は誰に？

この導水路の建設事業費は890億円といわれ私たち国民の負担です。すでに2006、2007年度で20億円もの血税が「調査費」の名で使われています。詳しい事業内容の説明は明らかにされていません。

08年5月徳山ダムの運用が始まりました。岐阜県の古田知事は、徳山ダムについて、岐阜県は上水、工業用水に一滴の水も使うアテが無い状況で「今後23年間で592億円もの建設費償還をしなければならない。大きな財政負担だ。」と苦渋の記者会見をしました。私たちは、このような失敗を繰り返してはなりません。

市民のみなさん、自然豊かな私たちの大切な長良川を、ダムの水で汚し、未来の世代に莫大な借金を残すムダな公共事業を、このまま続けていいのでしょうか。

